

不服審査請求に続き 声を上げよう

年金とくらし守れ! 20万請願大運動



不服審査請求は目標を大きく上回る成功をおさめました。年金とくらしを守るためには、この運動をさらにいっそうひろげていくことが必要です。審査請求のなかでひろがった怒りと、年金引き下げは不当、最低保障年金をつくれ、の要求に確信をもち、こんどは、「年金とくらし守れ 20万請願大運動」で、安倍政権への直訴です。地域の人々や団体にも呼びかけ成功させましょう。

まだまだ
続く

年金引き下げ

年金は、消費税増税、物価上昇というきびしい情勢のなか、3年かけて2.5%引き下げることが決められました。10年あまりも昔に物価が下がったのに、年金を下げなかった、という理由です。高齢者のくらしに何の配慮もない不当な引き下げです。しかも、年金引き下げはこれで終わりません。その後もマクロ経済スライドという不当なしくみで、毎年引き下げられていきます。

マクロ経済スライドとは

少子高齢化の進展にあわせて年金を下げていくしくみです。高齢者の平均余命の伸び(0.3%)と現役人口の減少(0.6%ぐらい)を合わせた率で、毎年年金を下げていこうというのです。一定期間、毎年、1%前後で年金が下げられていくこととなります。

このしくみは、2004年の年金改悪の大きな柱でした。しかし、当時、名目年金額は下げないとしたので、物価が下がるときは、このしくみは発

年額50万円足らずの年金。そこから介護保険料をとられ、月に3万円で食べています。ほんとうに苦しいです。

(75歳 女性)

これ以上年金
下げないで!

緑内障、脊柱間狭窄症、心臓発作、糖尿病…病気のデパートです。年金下げられたらくらしていけません。

(80歳 男性)

今は貯金を取り崩して何とかやっています。近々それができなくなります。どうやって生きていくのか、不安で真っ暗です。

(77歳 女性)

動しません。しかし、今のように物価が上がるときは、このしくみが発動して、本来なら上がるべき年金が上がらないこととなります。

物価・賃金が1.3%上がっても、マクロ経済スライドが0.9%なら、年金はさし引き0.4%しか上がらないこととなります。

いま、このマクロ経済スライドを、物価が下がる時にも発動できるようにしようという改悪が検討されています。とんでもないことです。

全日本年金者組合

〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-60-20 天翔大塚駅前ビル
TEL 03-5978-2751 FAX 03-5978-2777
E-mail: honbu@nenkinsha-u.org

全日本年金者組合

あなたも年金者組合に
入りませんか

最低保障年金 の確立は急務



広がる高齢者の貧困

年金をもらっている人の半数近くが月額10万円未満です。基礎年金のみの方は1047万人、その月額は平均5万円、最多は3～4万円です。とくに、ひとり暮らしにすることが多い女性の年金は低額できびしい生活を強いられています。子どもの援助もなく、孤立する高齢者も増えています。

将来の高齢者は もっと大変に

働く人の賃金は、ここ10年下がり続けています。非正規雇用の割合は増え続け、全労働者の4割近くにまで上がっています。その多くが厚生年金に入れません。国民年金の保険料納付率は20代～30代で半数を割っています。将来、無年金や低年金になることが心配されます。だれもが老後をくらすために最低保障年金制度をつくるのが急がれます。

世界では常識 国連も勧告

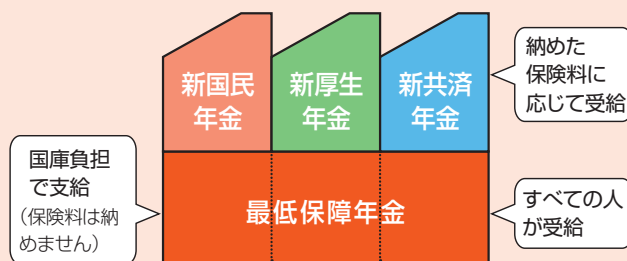
北欧を中心にヨーロッパ諸国、ニュージーランド、オーストラリア、カナダなどの先進国は、いずれもなんらかの年金の最低保障制度をもっています。発展途上国も多くが、保険料によらない年金制度をもっています。

2013年5月には、国連社会権規約委員会が日本政府に対して、無年金・低年金の存在、また、女性の低年金に懸念を表明し、最低保障年金制度の確立を勧告しました。

全日本年金者組合の提案

年金者組合は、2005年第17回定期大会で「最低保障年金制度の第2次提言」（以下「第2次提言」という）を決定しました。

「第2次提言」が提案する「最低保障年金制度」は、すべての高齢者に月額8万円を支給する全額国庫負担による「最低保障年金」を1階部分とし、収入に応じて納付した保険料額にみあう年金を2階部分とする制度です。



- 1 「最低保障年金」の支給要件は、日本在住10年。
- 2 支給額は月額8万円。
- 3 すでに納めた国民年金保険料は、2階部分の新国民年金として支給。
- 4 財源は、応能負担の税込とする。現在の基礎年金の国庫負担分と企業負担分は、「最低保障年金」の財源の一部とする。